

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 2日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2873400598		
法人名	社会福祉法人 正寿会		
事業所名	グループホームひまわり荘		
所在地	神崎郡市川町下牛尾2537番1 (電話) 0790-27-0900		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年10月4日

#### 【情報提供票より】(平成 19年 7月 1日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算	4.8人

##### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造瓦葺平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A : 39,000、B : 33,000、C : 30,000円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有( ) 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

##### (4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.7 歳	最低 77 歳	最高 歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田隅内科、田隅歯科、アキタケ外科
---------	------------------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

市川町の山合いの中に法人の敷地があり、その中の一角で高台の場所に木造のグループホームがある。介護サービスは、職員が主体にならず、利用者、家族の要望で「できることはさせて」の声を取り入れ、一步下がった見守りの介護を意識している。日常の家事は全員で取り組み、特に、食事の配膳、片付けは車椅子や、押し車の利用者も各自が行うようにしており、配膳で足りないものは利用者同士での声かけがあった。月1回利用者の寄り合いがあり、職員は特にその場をいかして、利用者の希望の把握に努めている。毎月職場内で研修を開催し、サービスの向上に意欲的であるので、さらに外部研修の参加や他事業所との交流等にも積極的な取り組みむこと、また、「地域と共に」をめざした運営推進会議で回を重ね話し合われる内容が、より具体的にホームの運営に活かされることが期待される。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の評価結果について職員会議で共有し、分りやすい記録の方法等の改善に取り組んでいる。今後も職員の研修等、課題とする部分への取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
重点項目	今回の自己評価も職員会議で全職員で取り組みを周知し、集まれる職員がミーティングで骨組みをつくり全員で評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
重点項目	前年度は1回実施。今年度は6月に1回目を開催。1回目の内容はグループホームの紹介、運営方針や事業計画などの説明、第三者評価が入るお知らせなどである。第三者評価を受けての効果や地域の特徴にあった評価項目の導入ができるのかなどの質問が出されている。運営推進会議の2回目は9月の予定である。今後、更に市や地域の活動者との連携を密にしていけることが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
重点項目	法人主体の行事の時に、法人主体の家族会を行なつのでその際や家族の訪問時に、利用者の状況を伝え、苦情や要望について聞く働きかけをしている。受けた内容については職員会議で検討、家族の次回訪問時に返事をかえしている。今後、グループホームだけの家族会を持つ取り組みを予定しており、更に意見など言いやすくなるため実現が期待される。
	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	地域の方は農家が多く旬の野菜や花を届けてくださったり、畑の一部の収穫をホームに毎年声掛けしてもらったりしており、また地域の夏祭りには招待がある。今後自治会や老人会等との交流を検討し、ホームの利用者が地域の一員としての関わりが持てる取り組みが期待される。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間の尊厳を守る介護の実践」を理念として「自分も家族も利用したいと思うサービスの提供」を基本方針としている。法人の運営方針は地域を念頭に置いているので、グループホームもその意向を理解している。		グループホームが地域密着型サービスと位置づけられたことから、今後はさらにホームや利用者、地域との関わり等を検討し、表現していくことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体の職員会議が毎年5月に行われている。今年は各部署毎にグループを組んで理念についても話し合いをしており、利用者主体について、たとえば職員の出勤、退出時は、必ず利用者に挨拶をすることの徹底等に取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方が、旬の野菜を届けてくれたり、好意でグループホーム用に畑の一部を芋や野菜を収穫用に確保してくださり、収穫時に利用者が参加している。地域の夏祭り等の行事にも招待があり、地域の自治会費は法人で納めているが、自治会や老人会などの活動には関わりが持たれていない。		ホームが山に囲まれた位置にあるので、環境的に地域へ出かけるのは難しいが、地域の自治会や老人会の様子など積極的に把握し、地域との交流や役割が担える内容についての検討が望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目について、職員会議で全職員が介護計画等の記載の方法などについて話し合い、改善に取り組んでいる。今回の自己評価もホームの職員会議で全職員が目を通して取り組みを周知し、集まれる職員がミーティングで骨組みを作り取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は昨年度1回実施し、今年度は6月に1回目実施、9月に2回目を予定している。ホームの紹介や運営方針の説明等が中心であり、第三者評価に関する質問等も出ているが、現状ではまだ運営推進会議を十分活かす所までには至っていない。</p>		<p>自己評価や第三者評価結果等をメンバーに見てもらい、ホームからの取り組みや課題説明等で協力関係が具体的に築けるようにすることが期待される。また、今後メンバーとして自治会や老人会、民生委員等身近で活動している方への働きかけも望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度、利用者については電話で相談するなど連絡しているが、連携までは至っていない。</p>		<p>町内にはグループホームは一カ所であるため、グループホームひまわり荘の取り組み等について更に理解を得たり、お互いに何か協力できること等積極的な話し合いが期待される。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>花見、夏祭り、餅つきの法人3大行事の時、また家族の訪問時に報告を口頭でしており、月1回利用者が書いた絵手紙を送られているが、書面での報告は送付していない。</p>		<p>口頭での説明だけでなく、書面での報告は各家族に状態が分りやすく、職員も伝えた内容の確認もし易いので取り組みが望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人全体の行事の時に、法人全体の家族会を行なうのでその際や家族の訪問時に、苦情や要望について聞く働きかけをしている。聞いた要望等はミーティングで話し合っており、返事は家族の訪問時にしている。</p>		<p>9月にグループホーム5周年記念に家族全体ふれあいの会が予定されている。今後継続し、グループホーム独自の家族会等小規模の単位で家族の意見や要望が出せる機会作りが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少ないが、ある時は利用者の状態が異なるので、一人ひとりに説明している。新人職員は、最初は一人ついて指導し、その後は交代勤務で2人で組んで実働の中で研修している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人の職員会議で研修会があり、認知症については、ホームに講師を特別に招いて助言を得た。またホームの職員は月1回勉強会を開催しており、内容は勉強したい内容を持ち寄り、計画立てて希望が多い課題から実施している。		さらに外部研修にも計画的に参加できるよう、情報の収集や勧奨など、管理者の積極的な働きかけが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町にある同じ法人内のグループホームとの交流は持たれているが、他の同業者とは今のところ接点はない。		職員間でも他のホームを見学したり研修することについては積極的な意欲が見られるので、他のホームとの交流等が期待される。ホーム開設から5年の実績があり、今後は中心になって、外部とのネットワーク作りが期待される。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者と家族に見学をしてもらい雰囲気を感じて頂いて、納得してもらっている。		併設施設からの入居も含め、利用者の不安な気持ちや環境の変化を和らげるためにも、入居前に職員が利用者に会いに行ったり、日中半日程度過ごしてもらおう等、安心感をもたせたり馴染みの環境になりやすいよう機会作りが期待される。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の方法で分からないところは利用者に教えてもらったり、畑や花に詳しい方からお話を聞いたりしている。職員が忙しくしていると、食事時に利用者から「せかせかしているよ」と指摘されたことを反省し職員の教訓としている。また、新しい職員には「教えてあげねば」というやさしさを発揮してもらっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	月に1回利用者全員の寄り合いの会が持たれており、希望や意向の声が出されている。日頃あまり意見を出さない方も周りに刺激されて意見を言われることもある。また、日々の生活の中で積極的に声かけし、失語症の方には身振り手振りを交えて思いの把握に努めている。		
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画作成担当者の計画案をもとに職員はミーティングで検討し、個人記録にも計画表を意識して記録をつけている。作成では「できることはさせて欲しい」と本人や家族の要望で、同意を得て個人の状況に合った計画に取り組んでいる。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画の期間は要介護認定の見直し時期とし1年に1回と設定しているが、月に1回、全ての利用者の状態について話し合い、状況の変化や主治医の指示のある利用者は変更している。		
<b>さ</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	短期利用共同生活介護を実施している。入院されていた方やホームへ入居希望の方も利用している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科、外科の協力医療機関がある。内科は協力医療機関がかかりつけ医となっており、ホームへ2週間に1回の往診日を設けている。その他は入居前からの馴染みのかかりつけ医にかかっている方もあり、原則として家族が付き添いしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関する対応指針として、契約時にターミナルケアについて説明し同意を得る取り組みがあり、看取りについての事前確認書を作成している。実際に状態が終末期に該当する段階になった時は、家族に再度説明し確認をしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けの研修は、職員が最初に受けており、心に余裕を持って、ケアをすることを心がけて、お互い気をつけている。個人の記録は職員の控え室に保管されており、職員以外目に触れない場に置いてある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外、利用者は自由に家にいるような状態で、好きな時に好きなことしており、思い思いに自分のペースですごせるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は併設施設の栄養士が立てているが、月1回の寄り合いで希望の献立を決めたり、家族、職員、地域の方により食材を頂くので献立が変わる。交代で準備や後片付けをしている。利用者全員ができた物を自分の席に運んで、車椅子や押し車の人もそれぞれ運んでいる。利用者同士で足りないものがあれば、声かけし合っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者全員が毎日入浴できるようにしている。あまり入りたがらない方も、着替えの方法や入浴の薦め方を工夫し入ってもらえるようにしている。季節に合ったゆず湯、菖蒲湯など取り入れ楽しめる工夫もしている。利用者の意向で食後ゆっくりしたいからと夕食前に入られる方が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生きる場としての支援を心がけており、掃除や洗濯物たたみ、貰った野菜の下処理など自主的に全員で行なっているものや、料理や洗濯物干し等得意な人がすすんで行なっているものもある。花作り、畑作り、編み物など楽しみごとを自由にできるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが市街地にはないため、広い法人敷地内を散歩し、景色もよいので、ホーム玄関より一歩出ただけで四季が感じられる。週1回の食事の買い出し、月1回の外食、希望の買い物、地域からの招待、寄り合いでの外出先の希望の取り組み、季節によって1ヶ月に何回かの外出と機会作りに取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居前に徘徊の有無を聞いて把握し現在は居られない。ホームが山の側にあり、山の中に入り込んで迷ったり、玄関を出るとすぐに急な坂道で転ぶ危険性があるため、予防として玄関や要所にセンサーがあり、チャイムで外出が把握でき、また職員同士で確認の連携に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の避難や、土砂災害を想定した訓練、消火訓練を行なっている。実際に警報をならしたり、併設の施設に応援を頼んだり、ホームに避難用の車を着けたり等可能な限り実践に近い形で行なっている。併設施設を含め全体としての訓練も5月に実施している。災害時の備品の準備も努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士がバランスに配慮して献立をつくっている。食事の摂取量は記録し、水分は、食事時以外に10時、3時、睡眠前にお茶の時間として飲んでもらっている。各自で何時でも飲めるよう熱いお茶と冷たいお茶が食堂のテーブルに用意されており、また各部屋に持ち帰って冷蔵庫にお茶を保管し、飲んでもらえるようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が広く、木造で、天井は吹き抜けで明るい。ガラス戸越しに山々を眺望し四季を感じられる。ホームが高い場所にあるので、涼しい風が心地よく入るため、窓を開けて自然の風をよく通すようにしている。静かな雰囲気です。食事時には童謡のレコードをかけ音が気持ちよく聞こえるように音量を調整している。利用者も寝る時以外は殆んどリビングで思い思いにゆったりすごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けで、それ以外は全て持ち込みである。収納場所も広く、量多く持ち込み可能である。思い思いにその人らしい部屋作りがされており、利用者の若い時の写真や家族の写真が貼ってあったり、部屋の入り口にある飾り台には利用者の編まれた作品が展示されていた。		

 は、重点項目。